

志望大学別出題分析と学習アドバイス

(2024年1月作成)

早稲田大学

早稲田は、学部ごとに¹出題パターンの特徴が異なる。現代文では、長大で難解な問題文を課す学部が多い²うえ、学部によっては古文・漢文との融合問題が出題されることもある。

政治経済学部 日英両言語による「総合問題」が出題される。試験時間は全体で120分。

日本語問題では、図表も含めた長文素材が問題文として使用される。設問数は6～7ほどあり、問題文の内容を踏まえた図表の読み取り問題や空欄補充がマーク式で出題され、後半1～2題では記述問題が出題される。記述問題では問題文全体の論旨（趣旨）を踏まえた200字程度の内容説明問題が出題されることが多い。

法学部 国語は、大問4題で、うち現代文が2題、残りが古文や漢文。試験時間は90分。

現代文では、4000字程度の抽象的で専門的な評論が問題文とされることが多い。文章の難易度は極めて高く、読解には語彙力と論理的思考力が問われる。設問は、傍線部の内容説明・理由説明や空欄補充が多く、筆者の言いたいことを正確に読み取る力が必要。例年、最後に120～180字程度の記述問題が出題されている。

文学部 国語は、大問4題で、現代文2題・古文1題・漢文1題で構成されている。試験時間は90分。

現代文では、2000～4000字程度の長短幅広い評論が問題文とされることが多い。設問は、傍線部の内容説明や空欄補充を中心に、語句・漢字問題も含めてさまざまな形式の出題がある。

商学部 国語は、現代文・古文・漢文それぞれ1題ずつ計3題で構成されている。試験時間は60分。

現代文では、4000字を超える長文の評論が問題文とされることがもある。設問は、傍線部の内容説明や空欄補充の選択式問題が中心。漢字・慣用句などの知識問題の出題もある。

教育学部 国語は、選択する方式によって大問数が異なる。大問4題の場合は現代文2題、古文・漢文1題ずつ（大問3題の場合は現古漢1題ずつ）。試験時間は90分。

現代文では、3000～4000字程度の高度な内容の評論が問題文とされることが多い。設問は、傍線部の内容説明や空欄補充のほか、漢字・慣用句などの知識問題の出題もあり、ほぼマーク式の設問だが、一部の学科・方式では、内容説明や自身の考えをまとめる記述問題が100～200字程度で出題される。

上智大学

国語は、学部・日程によらず大問3題（現代文・古文・漢文が1題ずつ）が出題される。試験時間は60分（文学部は75分）。

現代文では、1800～3500字程度の硬めの評論が問題文とされることが多い。設問は文学部を除いてすべてマーク式で出題されるが、文学部は漢字問題と、理由説明や問題文全体の論旨（趣旨）を踏まえた内容説明が40～60字程度の記述形式で出題される。

南山大学

国語は、大問4題で、うち現代文が3題、古文か漢文が1題で構成されている。試験時間は基本的に90分。

現代文では、1500～3000字程度の評論が問題文とされ、随筆が出題されることもある。設問はマーク式が中心で、空欄補充、傍線部の内容説明・理由説明が多く出題されるほか、内容合致や脱文挿入、漢字の読み書きや語句の意味に関するものも出題されるため、設問数が多いので、時間配分には注意が必要。

同志社大学

国語は、現代文1題・古文1題の計2題で構成されている。試験時間は75分。

現代文では、5000～6000字を超える評論が問題文とされることが多いため、時間配分に注意する必要がある。設問は、内容合致や傍線部の内容説明・理由説明、空欄補充が出題の中心。これらマーク式の問題のあとに、40字の記述問題が出題されることが多い。

関西学院大学

国語は、現代文1題・古文1題の計2題で構成されている。試験時間は基本的に75分。

現代文では、3000～4000字程度の評論が問題文とされることが多く、哲学・思想から政治・経済まで、その内容は多岐にわたる。随筆が出題されることもある。設問は、空欄補充と傍線部の内容説明・理由説明などが、すべてマーク式で出題される。